

心土破砕機

52 マスキオ社 PCシリーズ

下層の土塊を砕く作業と同時に表土と有機物残渣を混和する



メーカー希望小売価格：(170) 1,365,000円
(200) 1,449,000円

■お問い合わせ
株式会社ピコンジャパン
〒066-0077 北海道千歳市上長都 1121-2

型式	作業幅	タイン数	最大作業深さ	所要馬力
PC170	1.7m	5	45 cm	70PS～
PC200	2.0m	5		80PS～

ゲリラ豪雨、長雨が続くことも、下層に水みちを確保し、表面水をうまく排水している農業経営者は、気象変動の影響は受けていないと話す。既に今の気候変動に合わせた作業体系を見つけた彼らは、「乾く圃場」づくりの成功者である。

収穫後に必ずサブソイラをかけ、心土破砕をする。その後、スタブルカルチやハローをかけて粗耕起・混和作業を行なう。サブソイラが排水性改善に有効であることも、スタブルカルチが表面の有機物残渣を表土

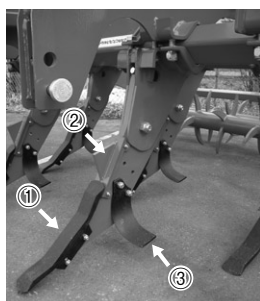
と混和して分解を促進することも周知の話だ。問題はこれらの作業を適期にいかにより遂げるか、である。今回紹介するのは、「サブソイラ」と「簡易耕+表面混和」を1回の作業で済ませたい……という希望に相應る作業機、マスキオ社のPCシリーズ(株ピコンジャパンが取り扱い)である。前方に2列のサブソイラ、後方にダブルスパイクローラーを配した構造で、心土破砕とミキシング耕の複合作業が行なえる。サブソイラは先端の刃先の上部に

三角形のクラッシュャー、左右両脇にフィン形のディフレクターが配置されている。刃先上部の三角形のクラッシュャーと両脇のディフレクターで土塊を砕き、下層の硬盤層を破碎して土壌構造を改善する。ユーザーにとってありがたいのは、耐磨耗性に優れた先端の刃先が、上下方向にリバーシブルで使用できることだ。ポルトを外して上下反転して付け替えれば、2倍長持ちする。

サブソイラ後の凸凹が残らない

一方、ダブルスパイクローラーとは、タインのついた2本のローラーのことだ。サブソイラで凸凹になった土壌の表面を均しながら自転する。タインが砕土と混和するので、ロータリ耕に近い耕うん効果をもたらすし、表土と畑表面の有機物残渣が混和される。深く潜ろうとするサブソイラの深度を安定させ、心土破砕を安定させる働きもある。

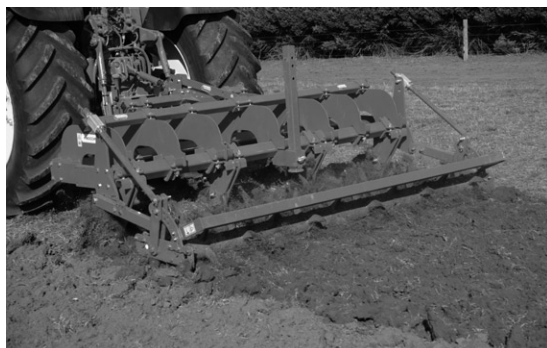
最大作業深度は45cm。同シリーズ



サブソイラの先端部。①先端刃、②三角形のクラッシュャー、③左右両脇のディフレクターがついている。

は3・5・7本爪タイプがあり、作業幅は1・3m、1・7m、2m、2・5m、3m幅まで5型式がそろっている。3本爪タイプは土壌条件にもよるが50馬力から曳ける。最大深度が55cmのATシリーズもあり、ラインナップは充実している。

複合作業には作業の能率アップだけでなく、圃場進入回数を減らすメリットもある。サブソイラは牽引力を要するが、自転するローラーであれば、余計な牽引力は要らない。収穫後の秋作業、春作業の始めには必ず登場するサブソイラ。同じ複合作業機の中でも、適期に最小限の作業を確実にこなせる機械として注目している。(加藤祐子)



PCシリーズの作業風景。未耕起の隣のラインと比べて耕起跡がはっきり分かる。